

【外国語・小5・「Unit 4 あこがれの一日について伝え合おう」】①

育成を目指す資質・能力

単元目標：ALTや友達とお互いのことを知るために、世界の子ども達や身近な中学生の一日の過ごし方について聞いて理解したり、日課について伝え合ったりしながら、自由な一日があったら何がしたいか考え、あこがれの一日について発表することができる。

ICT活用のポイント

英語を聞く前にヒントなる推測を促す視覚的資料の提示／小・中学生がそれぞれ学校に居ながら交流できるオンラインでの接続

事例の概要

【つかむ】

ALTの子どもの頃のあこがれの一日について聞き取る活動を通して、世界の生活・文化等の違いに気付き、本単元の学習に見通しをもつ。

単元の課題

ALTや友達とお互いをもっと知るために、自分のあこがれの一日について発表しよう。

【追究する】

日課や習慣、何時にどんなことをどのくらいしているかたずね合う。

友達とやり取りしながら、自分のあこがれの一日について考える。

【まとめる】

自分のあこがれの一日について分かりやすく発表する。

【事例におけるICT活用の場面①】

(英語を聞く前にヒントとなる推測を促す視覚的資料の提示)

- ALTは自分の子どもの頃のあこがれの一日の理由を説明する際、視覚的資料として、自国の生活・文化等についての写真や動画を提示する。
- 児童はそれぞれのICT端末で写真や動画を近くで見ることができるので、英語の説明を聞く前にALTの子どもの頃のことやALTの国の生活・文化等について推測する。

【事例におけるICT活用の場面②】

(小・中学生がそれぞれ学校に居ながら交流できるオンラインでの接続)

- 小学校側の教師と中学校側の教師のICT端末をオンライン会議システムでつなぎ、児童と生徒がやり取りできるよう、両校の教師が進行する。
- 大型提示装置に相手先の映像を映し出し、クラス全体で見られるようにする。
- ICT端末のカメラに向かって小学校の児童代表が自分の一日について英語で話す。
- ICT端末のカメラに向かって中学校の生徒代表が中学生の生活について英語で話す。その際、簡単な英語を用いて詳しい説明を加えたり、これから中学校に入学する児童に対してアドバイスや勧誘、メッセージ等を付け加えたりする。
- 児童がさらに知りたい中学生の生活について英語で質問し、中学生が回答する。
- 両校のALTが児童と生徒に対して発表や、やり取りの様子について、賞賛の言葉を伝える。
- お互いにお礼と挨拶を交わして終了する。

【外国語・小5・「Unit 4 あこがれの一日について伝え合おう」②】②

【事例におけるICT活用場面②】



小学生の発表



中学生の発表

What time do you do your homework?

I do my homework at 7:00.

Do you always do your homework at 7:00?

Yes, I do.



Wow!さすが中学生!

- 追究する過程において、オンライン会議システムを使い、中学校の生活について中学生の発表を聞いた。児童は中学生の話を再来年の自分たちの生活として興味・関心をもって聞くことができた。中学生からは、「中学校で学習する教科や「中学校に入学したら自分の所属している部活動に入ってほしい」というメッセージが伝えられる等、実生活につながる情報により、児童は必要感をもって活動に取り組むことができた。
- 小学生がUnit4で学んだ表現を用いて日課やその時刻について発表したのに対して、中学生は簡単な英語で日課についてその様子や理由を加えて伝えていた。小学生は聞き手として「分かりやすく伝える」とはどういうことか言語活動を通して具体的に知ることができた。

- 知り合いの中学生が英語を流暢に話している姿は、小学生にとって自分達が今後英語を学んでいく先の姿としてうつり、それは今後の目標となり、学習の意欲を高めることができる。

- 両校の発表後、小学生から中学生の生活についての質問を行った。両校ともそれぞれの教師の端末1台のみ用いたため、全体でやり取りを共有しながら進められた。児童の発達段階や英語力を考えると、発表や質問をしたい児童が挑戦したり、友達のやり取りを聞きながら今後の取組の参考にしたりと、5年生の実態に合わせて対応できる学習形態であった。
- 中学生の回答に対して**頻度を表す副詞**を使ってさらに詳しく質問をすることができ、頻度を表す副詞を必要感をもって用いることができる場面であった。

- 普段会わない人とのやり取りなので、挨拶やお礼を言ったり、名乗ったりする英語を必要感をもって使うことができる。
- 相手の話を聞きたいという気持ちをもてるやり取りだからこそ、中学生に質問した児童は自分の英語が通じた喜びや知りたいことが分かったうれしさを感じることができる。